



静岡 陸協 会報

第 14 号 (2013年 3月24日 発行)
一般財団法人
静岡陸上競技協会
〒420-8508
静岡市葵区鷹匠 1-14-31
吉野寿ビル 2F
TEL・FAX 054-253-9801



静岡陸上競技協会
会長 鈴木 修

当協会は昨年二月に一般財団法人化し定款(新しい規則)に基づき、当協会の運営に関するルール作りを地域陸協役員の方々に協力頂き進めて参りました。また、会員の皆様方には本協会が主催、共催、主管を務めた数多くの競技運営にご協力いただき、円滑に大会運営をすることが出来ました。心より感謝を申し上げます。

静岡県が一丸となって取り組んで参りました、「ぎふ清流国体」では開催県の岐阜に二位を三ポイント差で譲ったものの二位、都道府県駅伝ではチームワークを発揮して女子五位、男子十一位と健闘いたしました。

皆さんが日頃、学校で、地域で熱心に指導いただいた成果であり、三地域陸協が連携することの必要性を痛感いたしました。

おります。

本協会はいよいよ来期(4/1)から一般財団法人静岡陸上競技協会として本格的にスタートいたします。二〇一一年四月から当協会の会長を一期二年の約東でお引受けし、本協会の一般財団法人化の推進、運営等の改革をすすめて参りましたがお約束どおり今期で会長職を退任させていただきます。

本協会を運営していく上で一番大切なことは役員任期、定年制を明確にすることであり細則に明記いたしました。又、会長、理事長は三地域陸協が輪番で担当いただき組織の活性化を図っていくことといたしました。

会長職は三期六年といたしましたので残り任期二期四年は西部陸協が責任を持って担当することを理事会でご承認いただきました。来期からは私に変わり和田会長、鳥井理事長体制の運営をお願いいたしました。皆さんのご支援とご協力を

お願いいたします。

尚、私はこれからも本協会が各種諸事業を更に推進し、発展させていくために、環境整備、施設の充実に努めるとともに財政基盤を確立するために協力して参る所存でございます。

本県は東西に長く地域により特徴のある県であります。夫々の地域に根ざした特色のある大会が開催され発展されるよう三地域陸協の皆さんのご協力をお願い申し上げます。

会員の皆さんは陸上競技に情熱をお持ちです。青少年の競技力強化と育成に三地域陸協が連携し協力して取り組んでいただければ、「陸上王国静岡」の復活が果たせるものと期待をいたしております。

二年間皆さんと一緒に活動してまいりました。教えていただくことばかりでございました。しかし、静岡陸協は自分たちの組織であり協会であることを自覚し、会長は自分たちのトップとして自分たちの会員の中から推薦していくことが必要です。そして、今までの習慣、慣習にとらわれたやり方ではなく、発想を転換し三地域陸協が協力して改革をしていかなくはスポーツ振興が図れないことに気がきました。

新年度からは新しく就任される和田会長、鳥井理事長を中心に自分たちの協会に自信と誇りを持って発展させていたいただけることを心よりお祈り申し上げます。ありがとうございました。

平成二十四年度 第二回 理事会及び専門委員長会議

- 一 日時 平成二十四年十二月八日
- 二 会場 アソシア静岡
- 三 議題

〔審議事項〕

- ・ 全国都道府県対抗駅伝選手選考について
- ・ 平成二十五年度大会日程について
- ・ 静岡陸上競技協会財団化に伴う細則と規約の承認について

〔報告事項〕

- ・ 第二十八回全国小学生陸上競技交流大会及び第二十九回東海小学生リレー競走大会報告
- ・ 第六十七回国民体育大会(ぎふ清流国体) 報告
- ・ 平成二十四年度第二回顕彰委員会・記録委員会(平成二十四年度公認大会と新記録) 報告
- ・ 第十三回静岡県市町対抗駅伝競走大会報告
- ・ 審判委員会報告
- ・ その他





平成二十四年度 後期報告

理事長 和田隆保

八月以降の事業と主な競技会の結果を報告します。八月は三月から始まったロンドンオリンピックで陸上だけでなくスポーツ界全体が盛り上がった夏でした。本県からも出身者を含む六名が出場しました。男子四×一〇〇m Rでは飯塚翔太選手がアンカーを走り見事五位に入賞し、大いに県民を沸かせました。静岡国際の協力も報われたのではないでしょう。日本チームとしてはメダル一、入賞二と少し物足りなさを感じましたが、この結果をしっかりと受けとめ次につなげて欲しいと思います。

新潟インターハイでは浜松市立高が女子四×四〇〇m Rに高校歴代四位の好記録で優勝、また女子総合でも三位に入賞しました。県全体では昨年並みの入賞者がありましたが優勝者が無かったことは少し残念でした。

千葉で行われた全日本中学生選手権では、予想通りの強さを発揮して男子は八〇〇mと三〇〇〇m、女子は二〇〇m、一〇〇m H、走幅跳、四種競技に優勝しました。その他入賞者も多数あり、大変な好成绩でした。なお、女子一〇〇m Hと四種競技に優勝した浜松入野中の藤森さんにはウイシユマン賞が授与されました。これからも大きく伸びていくことを切に願います。

全国小学生交流大会では、女子五、六年八〇m Hに二位、女子五、六年四×一

〇〇m Rに三位など今年も元気なところを見せてくれました。

国体は十月五日から九日まで岐阜市長良川競技場で開催されました。五日間の競技期間中苦しい日もありましたが、選手、コーチ一丸となって天皇杯賜点、二年連続二位、皇后杯66点三位の好成績でした。今年は自己記録を更新して入賞する者も多く、また少年Bに出場した女子中学生の大活躍がありました。大会最後の種目、男子成年少年共通四×一〇〇m Rで三連覇を達成した時には静岡陸上が一つになった感がありました。これから選手コーチだけでなく選手と送り出す皆様をはじめ静岡陸上全員の力で優勝に向って精進したいと思います。

全日本ジュニアユース大会ではジュニア走高跳、ユース四〇〇m Hに優勝・入賞者も多数あり、少し地力を感じました。また、ジュニアオリンピックでも、今年強さを見せている中学生が五種目に優勝し、A・B・C共通のリレーでも県選抜チームが女子は優勝、男子は三位とシーズン最後まで活躍してくれました。

さて、主催、主管競技会ですが、九月二十九日、三十日に開催予定の県高校新人陸上が台風17号の影響で二日目の競技を十月七日に延期して実施しました。それ以外は予定通り実施することができました。本年度は静岡が東海中学陸上を主催する年でしたので、八月十一日、エコパで開催しました。暑い中、役員、審判にあたられた会員の皆様の円滑な運営、正確な審判により、選手も大いに頑張り、東海中学新が五つも生まれる盛況な競技会になりました。駅伝シーズン目前十一

月三日、第三回エコパトラックゲームズを開催し、一〇〇mで10秒19という驚異的な高校記録が生まれました。また男子四×一〇〇m Rでも二チームが40秒を切って高校新記録を達成するなど陸上界にとつては大変うれしいトラックシーズンの最終となりました。エコパの評判とともにこの競技会が大きく育ってくれるとうれしいのです。

十一月四日、男子六十三回、女子二十五回県高校駅伝を小笠山エコパとその周辺道路で開催しました。天気にも恵まれ男子は島田高校が初優勝を果し、女子は常葉菊川高校が二年振り三回目の優勝で全国駅伝の出場権を獲得しました。常葉菊川高校は東海高校駅伝でも二位に入賞しました。京都での全国高校駅伝では島田高校が二十六位、常葉菊川高校が十八位と健闘しましたが今一步の成績だったと思います。中高の連携を深め向上に務めてもらいたいと思います。第六十五回県中学総体駅伝は十一月十八日に高校と同様エコパとその周辺道路を使用して行いました。強い風の中でしたが三地区の子選を突破した男女各二十四チームが熱戦を繰りひろげ、男子は陸上部は無いようですが全校を上げて駅伝に取り組み小山中学が昨年に続き優勝、女子は御殿場富士岡中学が八連覇を達成しました。両校とも大変立派だと思えます。全国大会では小山中が十二位、富士岡中が六位でした。両校の益々の発展を祈るとともに他校の奮起も期待します。

十二月一日に第十三回静岡県市町対抗駅伝を開催しました。前夜祭は鈴木名誉会長、松井会長、川勝知事をはじめ多くの

協力企業、市長、町長の皆様の参加を頂き盛会でありました。当日も好天に恵まれ心配した強風も収まり絶好のコンディションの中スタートしました。また、沿道でも例年以上の多くの観衆が声援を送って下さいました。結果は市の部が浜松市西部が三連覇、北部、中央が二位、三位に入り、浜松市が上位を独占する強さを見せました。町の部は長泉町が八連覇を成し遂げ、二位函南町三位小山町でした。敢闘賞は伊東市、伊豆市、島田市、東伊豆町、川根町が獲得しました。今回も繰り上げスタートをしたチームは一つもありませんでした。下位チームの頑張りも大いに称賛されるものです。市町駅伝も最初の頃よりいろいろ状況が変わってきまして。各方面から多くのご意見もいただいております。やれる事から改善し、これからも全市町参加の下、大会の趣旨を守り、発展させていきたいと考えております。

第三十一回都道府県対抗女子駅伝は一月十三日に開催され、本県は昨年の記録を大幅に更新し、過去最高の五位に入賞しました。一般の三人がしっかりとレースをつくり、高校生が粘り、中学生がしっかりとつなぎ、ふるさと選手が走り切る、理想的なレースを展開しました。今回を含む今迄携わってこられた選手、コーチ、関係の皆様方の努力の結果だと思えます。これからも一層の向上を願います。第十八回都道府県対抗男子駅伝は次の週、二十日に行われ、力のある一般選手の活躍もあり一位でした。八位へ八秒差と迫り、入賞への道筋も見えてきたようです。次回に期待したいと思えます。

その他、八月十日、十二月八日に理事

会、十二月二日に常任理事会、九月二十四日顕彰委員会を開きました。また、三陸協の会長、理事長と協会運営の打合せ会を数回持ちました。

今年度も残暑厳しい夏でした。一転して寒さ厳しい冬を迎えております。会員の皆様のご協力により協会活動も順調に実施されており、本年は県代表選手の顕著な活躍も見られました。新しい年二月は中日浜名湖一周駅伝、浜松シテイマラソン、室内棒高跳、三月には駿府マラソン、審判講習会と行事が残っております。本年度最後まで皆様のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

静岡県三地区報告

東部陸協の活動について

東部陸協理事長 望月 紘一
今回は、東部の市町の主な事業を紹介いたします。

まず、今年で連続七十回を迎える富士宮駅伝を開催している富士宮市です。かつては、全国のトップ選手が所属していた大昭和製紙の大久保、森選手や、旭化成の宗兄弟、広島、谷口選手等の競り合いをこの大会で見ることができました。高校では、何回も全国高校駅伝に出場した富士宮北高校や、東海高校駅伝に十年連続出場した富士宮農業高校などの活躍がありました。

出場チームは現在二〇〇チームを越え、六区間の記録収集も、全て陸協内で処理しています。そんな大会を運営している

陸協の現会長が渡井新二郎氏です。父親の故新氏が起こし、故石川亨氏や兄の新八郎氏の後継者として、立派に協会をまとめ、市民に愛される大会に育てていることに深い敬意を表したいと思います。

次に八月初旬の富士登山駅伝を実施している御殿場市です。板妻自衛隊等の協力があるとはいえ、標高差三千メートル以上の過酷な大会を運営している御殿場陸協の方々の協力態勢は実に見事なものです。

何年か前まではフジテレビで放映された全国的にも有名な大会になっていきました。テレビ放映がなくなりました。現在も、大会を盛り上げる多くの努力のおかげで、全国からたくさんのチームが出場しています。

今後テレビ放映が復活し、より一層の大会に発展していくことを願っています。現在の理事長は私の初任地での教え子の勝又博司氏です。高校時代、新聞配達を三年間続けながら、全国高校駅伝にも出場した明るい少年でした。立派に成長した教え子の姿を見るたびに教師冥利につきる思いがいたします。

三番目は、五月に裾野高原マラソンを実施している裾野市です。現在の志村会長を中心に、協会の結束力は東部一です。小学生から大人に至るまで、裾野陸上競技場を十分に活用し、公認大会も行い、素晴らしい活動をしています。

最後は、小山町です。十二月下旬に富士スピードウェイでマラソンフェスタを開催し五千人近くのランナーが参加する年納めの大会を実施しています。今回の県市町対抗駅伝大会では、大会記録を樹

立、三位入賞を果しました。

第一回大会から監督が続いている室伏剛氏や、陸上部のない小山中学校を、校長として、全国大会まで出場させた山口氏など小山町民が繰出で一つになって活動しています。

その他の市町もそれぞれの特長を生かして活動しています。

昨年度から伊藤副会長と西尾普及委員長の尽力により、小学生の台湾遠征も始まりました。

東部陸協では今後も創意工夫を生かした幅広い活動を行っていきたくと思っています。

二十四年度中部陸上競技協会を振り返って

中部陸協理事長 大塩 正則

ロンドンオリンピックの行われた二〇一二年は、中部陸上競技協会にとっても大きな節目の年になりました。オリンピックに地元で生まれ育った生抜きの人、高瀬慧選手と飯塚翔太選手が出場、高瀬選手は二〇〇mで準決勝進出・飯塚選手は四×一〇〇mRでアンカーを走り、五位入賞と大活躍し、多くの若い選手達に夢をあたえてくれました。

二人の選手は地区のスポーツ少年団で陸上競技を始め、中学・高校・大学・実業団と順調に育ってきた選手です。中部陸上競技協会傘下には多くの陸上競技スポーツ少年団があり、優秀な選手が多数活躍しています。この選手達を育てていくためには、スポーツ少年団・中学校・高校とが連携を図り、中部陸協独自の「一貫育成指導システム」の構築が必要だと

思っております。今年も、全国大会で多くの選手が活躍してくれました。全国小学生交流大会では、五・六年男子八〇mHで宮島良太選手(千代田A.C.)が、七位タイムは12秒71、五・六年女子走幅跳で奥村ほか選手(千代田A.C.)が、五位記録は4m67、全日本中学校陸上選手権大会では女子一〇〇mHで高橋砂里奈選手(静岡東)が、五位タイムは14秒32、ジュニアオリンピック大会女子Cクラス(中一)走幅跳で小野田史紗選手(静岡東)が、優勝、記録は5m47の大会新記録でした。全国高校総体陸上では、女子七種競技で豊田梓選手(東海大翔洋)が、三位得点は4874点、女子四×一〇〇mRで静岡市立商業(水野・瀧下・大橋・平木)が、三位タイムは46秒78、県高校駅伝大会では、男子の部で島田高校が、四区で先頭に立ち見事なレース展開で初優勝、都大路でも二十六位(2時間09分04秒)と頑張ってくれました。今年も女子選手の活躍が、目立った一年でした。

また、以前から、会員の親睦会開催の声が多く聞かれており、八月十七日に開催しました。当日は、河合会長を始め、多くの会員の皆様に出席をいただきお互いに情報交換ができた大変盛り上がり有意義な会となりました。終わりに、会員の皆様の益々のご健勝を祈念してご報告いたします。

西部陸協―輝く二〇一二年

西部陸協理事長 鳥井 啓市

本年の西部陸協はまさに「金」(二十四年世相反映)の一字にふさわしい活躍

を見せられました。八月、ロンドンオリンピックで成し遂げたメダル三十八個獲得(金七個)の朗報は日本中を熱くし、こぞってその健闘に拍手を送りました。西部陸協選手の活躍もまた、負けず劣らず晴れがましいものでした。

そのオリンピックに西部陸協から村上幸史選手(やり投)・右代啓祐選手(十種競技)・海老原有希選手(やり投)―いずれもスズキ浜松AC―の三名が出場し、メダルに向けてのアスリート魂を見せてくれました。

国内に目を移せば、全国クラスの大会で十九種目(個人十六・リレー三)に金メダルを獲得するという、かつてない輝かしい成果を収めることができました。特に全日本中学選手権においては、六種目を制することができました。この成績に関して言えば、現在のような競技二十三種目制になって以降、二〇〇六年に北海道が五種目を制した記録が残っていますが、それを上回る最多優勝となりました。

また、二冠を制した藤森菜那さん(浜松入野)は、七月に行われた県通信陸上においても、四種競技の日本中学新記録を樹立する活躍を見せてくれました。

このような素晴らしい結果を収められたのは、本人の努力は勿論のこと、それぞれの所属における監督・顧問の方々の、日々機を捉えての厳しくも温かなご指導の賜物と改めて感謝申し上げます。

さらには、各種大会に審判員としてご尽力戴いている皆様の、この上ないお力添えがあったらばこそと、紙面を借りて御礼申し上げます。

ちなみに、全国大会での優勝者、及び優勝チームは左記の通りです。

○第九十六回日本陸上選手権 (六月八日〜大阪)

男子十種競技 右代啓祐 (スズキ浜松AC・8037点)
女子やり投 海老原有希 (スズキ浜松AC・62m36)

○第六十五回全国高校総体 (七月二十九日〜八月二日新潟)

女子四×四〇〇mR 浜松市立高校 (杉浦・松本・名倉・建部 3分46秒28)
○第三十九回全日本中学校選手権 (八月二十日〜千葉)

男子八〇〇m 有川沸貴 (浜松天竜三 1分55秒65)
男子三〇〇〇m 太田智樹 (浜松浜名三 8分31秒12)

女子二〇〇m 大竹佑奈 (浜松高台三 25秒18)
女子一〇〇mH 藤森菜那 (浜松入野三 13秒98)

女子走幅跳 天城帆乃香 (浜松天竜三 6m11)
女子四種競技 藤森菜那 (浜松入野三 3125点)

○第六十七回国民体育大会 (十月五日〜岐阜)

成年少年共通四×一〇〇mR 森下佑樹 (一走・浜松市立一 39秒70)
少年女子B走幅跳 天城帆乃香 (浜松天竜三 5m87)

少年女子YH 藤森菜那 (浜松入野三 13秒66日本中学最高)

○第二十八回日本ジュニア選手権 (十月十九日〜愛知)

男子走高跳 平 龍彦 (筑波大 2m15)
女子一〇〇mH 茨田梨奈 (浜松工三 13秒87)

○第六回日本ユース選手権 (十月十九日〜愛知)

男子四〇〇mH 中野竜平 (浜松市立三 53秒20)

○第四十三回ジュニアオリンピック (十月二十六日〜神奈川)

A男子三〇〇〇m 太田智樹 (浜松浜名三 8分22秒92大会新)
A女子二〇〇〇m 大竹佑奈 (浜松高台三 24秒92)

A女子一〇〇mYH 藤森菜那 (浜松入野三 13秒93大会新)
女子ABC共通四×一〇〇mR 静岡 (47秒26大会新)

(二走 大竹佑奈 浜松高台三)
(四走 天城帆乃香 浜松天竜三)

そして、高校駅伝(女子)では、常葉菊川が二年ぶり三回目となる出場を果たしました。

加えて、静岡県市町駅伝では、浜松西部が優勝(二連覇)、浜松北部が二位、浜松中央が三位と、西部勢による上位独占という快挙を達成しました。これもひとえに、日頃よりの西部陸協へのご理解とご支援のなせる業と理解しております。

昨年本紙にも記しました「西部としての絆」をより強くして飛躍を…の誓いを、それなりに形にできたものと、内心安堵致しております。

西部陸協主管の事業においても大きな

成果を上げることができました。一昨年、第七回を迎えた浜松シティマラソンは、開催当初より市の中心部を走らせたいと考えておりましたが、諸般の事情から実現には至りませんでした。第八回大会実施に向けては、市制百周年の記念すべき大会となるべく、早くから検討・準備を進めて参りました。その結果、鈴木修会長をはじめ、各団体の厚いご支持を戴き、浜松市役所スタートが実現、盛大に開催することができました。来年度、第十回となる記念大会では、さらによりよい大会となることを目指し計画を進めて参りたいと思っております。

また、第三回エコパトラックゲームズでは、桐生祥秀君(京都洛南二)が、一〇〇mで10秒19のジュニア日本新記録、四×四〇〇mでは一位京都洛南高校が39秒64、二位兵庫滝川二高が39秒72と二チームが40秒を切るという素晴らしい日本高校新記録を樹立しました。全国規模であった浜松中日カーニバルの後を受け、規模を縮小して始めた大会ではありましたが、三年目にして日本新記録が誕生するという喜ばしい大会になりました。第四回大会ではこれまで以上の参加者が予想されます。今後、運営について今一度検討を加え、全国からも更に注目される大会になるよう考えていきたいと思っております。

最後になりましたが、会員の皆様には西部陸協の事業に対し、日頃より多大なるご協力を戴き感謝申し上げますと共に、日々健康に留意され、来季もより一層のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

各委員会活動状況

総務委員会

顕彰委員会報告

第一回 顕彰委員会選出内容

〔静岡陸上競技協会表彰〕

- 特別功労賞 該当者なし
- 永年勤続功労賞 該当者なし
- 以降は、県選手権、各地区陸協で表彰
- 功労者表彰 七名
- 日本記録樹立者表彰 一名
- 優秀選手表彰 十一名
- 優秀選手章(2) 一個人

- S級審判委嘱者 十名
- 優秀指導者 七名
- 審判員精励者 三十四名
- 審判員精勤者 三十一名
- 喜寿 十三名
- 古希 十六名
- 還暦 十五名

第二回 顕彰委員会選出内容

〔日本陸上競技連盟表彰〕各一名

- 秩父宮章
- 高校優秀指導者章
- 中学優秀指導者章
- 高校優秀選手章
- 中学優秀選手章
- 安藤百福記念章(小学指導者)
- 〔静岡新聞、静岡放送スポーツ賞〕
- 〔新聞報道にて報告済み〕
- 体育功労者賞 一名
- 優秀指導者賞 一名
- 優秀選手賞 一名

- 優秀チーム賞 二チーム
- 高校生奨励賞 該当者なし
- 中学生奨励賞 四名
- 〔県体育協会体育章〕
- 功労章 該当者なし
- 優秀選手章 四名
- 優秀チーム章 二チーム
- 奨励賞 三名

以上ですが、前年度と同様優秀選手が多いことが朗報であり、中学生の活躍が特筆されます。(総務委員長 石野吟策)

競技委員会

不正スタートについて

来年度(二〇一三年度)は日本陸上競技連盟が主催、共催する競技会では不正スタート(フライング)一回で失格することが決まっている。日本陸上競技連盟が主催、共催する競技会とは基本的に全国大会であり、日本選手権、全国高校総体、全日本中学、国民体育大会などである。また主催や共催ではないが、静岡県陸上は、日本陸上競技連盟が指定する大会ということで、数年前から不正スタートは一回で失格する制度を取っているがこれまでは静岡国際で失格となった例はない。日本陸上競技連盟が主催、共催しない地方の競技会では、今後主催団体が不正スタート一回で失格させるかどうか決定をする必要がある。不正スタート発見装置として、スターティングプロットにセンサーを取り付けた装置を、ニシスポーツ社と、セイコータイムシステム社が開発しているが、価格は一千万円を超え、またその操作や設定もかなり複雑である。ニシスポーツ社からスタートの

ピストルと連動してランプを光らせ、それを競技者と同時にビデオ撮影して、後から確認できる装置も発売されているが、こちらは後から確認したり、証拠を残すだけに過ぎず、スタートと同時に判定できるものではない。したがって不正スタート一回で失格させる場合でも、スターターとリコーラーの目視による判断に頼らざるを得ない現状である。

強化委員会

(競技委員長 永田勝久)

二年目を迎えた今年は、昨年の国民体育大会二位、都道府県駅伝男子十七位・女子七位を上回る結果を目標にスタートした。国体については昨年の大会と種目が大きく変更になったことに加え、山口国体での入賞者のほとんどが高校生であったことから、昨年の入賞種目に今年は得点を見込めない状況にあった。この厳しい状況の中、強化委員が中学から社会人までの各競技会を熱心に視察し、国体選手を選考するための資料を作成した。この地道な作業により、二年計画で強化を考えることができる若いチームが編成された。岐阜国体は当初厳しい状況にあったが、結果好成绩のうちに終わった。今年の若い力は来年への大きな期待へとつながった。そして三連覇を果たした男子リレーについては、課題であったバトン練習をNTC(ナショナルトレニングセンター)で実施することを実現していただいた協会に感謝申し上げます。この厳しい年を乗り切ったことで来年度こそ種目別天皇杯の獲得を目指したい。

都道府県駅伝は、女子が過去最高五位

入賞、男子は十一位と健闘した。来年度こそ男女アベック入賞を果たすため強化を進めていきたい。

今年の十二月は毎年実施している冬期強化合宿の他に、短距離・投擲対象に高校選抜合宿を沖繩県国頭(くにがみ)村において実施した。国頭村は過去五年間日本陸連がジュニア合宿を実施した実績がある。またプロ野球日本ハムの二軍のキャンプ地でもある。この恵まれた環境で本県ジュニアも質の高いトレーニングを実施してきた。参加選手の来年度の飛躍を期待したい。

三月にはエコパを会場に中高合同合宿を企画している。初めてのことで戸惑いもあるが、指導に幅が広がればと考える。今後は指導力の向上を図ることを課題に指導者の連携をさらに深めることで本県の強化に繋がればと考える。

(強化委員長 杉井将彦)

普及委員会

八月に横浜で行われた全国小学生陸上競技交流会では、五・六年女子八〇mHで馬場彩帆選手(三島陸上JC)が二位、五・六年女子四×一〇〇mリレーで下田敷根JC(村山愛果、村山鈴果、木村風沙、中村舞選手)が三位、六年女子一〇〇mで鈴木聖菜選手(浜松河輪AC)が四位、五・六年男子八〇mハードルで宮島良斗選手(千代田AC)が七位入賞を果たした。

同月、三重県伊勢市で行われた東海小学生リレー競走大会では、男子リレーで東伊豆TFCが二位、函南RCが三位、女子リレーで浜北ACが優勝、沼津陸上

が三位、混合リレーで浜松河輪ACが三位、富士陸上が八位入賞した。

全国大会・東海大会に向けては、七月に、選手・チームの士気を高め、互いの練習法等を見る機会として、選抜練習会を草薙で開催した。昨年度を上回る一二四名の選手、二十名の指導者が参加をし、前述の成果につなげることができた。

またシーズン終了後の十一月には、合同練習会を草薙で開催した。昨年度を上回る参加選手七十九名が、クレーマー・ジャパンの講師からSAQトレーニング等の指導を受け、柔軟性を高め、走・跳・投につながる基本的な動きを身に付けた。

十二月には指導者講習会を開催した。講師の高田均先生には、「体のバランス」の見方からゆがみや痛み等の治し方を指導していただいた。高田先生の細かな質問への対応や、一人一人の演習へのアドバイスに、参加者も大変満足していた。本年度、小学生選手の活躍や指導者の資質向上とともに、普及委員会として嬉しかったことは、ロンドンオリンピックへの三選手の出場だった。

高瀬慧選手は全国小学生陸上競技交流大会五年一〇〇mに、飯塚翔太選手は同大会六年一〇〇mに、県代表選手として出場している。二人とも決勝までは進めなかったが、全国の大舞台を経験している。また、佐藤悠基選手は六年生時に普及委員会主催の中国・上海遠征に一五〇m代表選手として参加し、また、全国クロスカントリーリレー研修大会にも出場している。

小学生から陸上競技を続け、バーニアウトもせず、オリンピック日本代表とし

て活躍できたことは、本人の努力は勿論だが、指導者を含めた周囲の環境に恵まれたことがあるだろう。三選手ともに小学生の頃は、野球やバスケットボール、水泳等も経験していると聞けが、陸上競技に出会い、その楽しさに触れさせ、目の大会の結果だけにとらわれず、長い目で指導されてきた指導者の力量に敬意を表したい。

普及委員会は、今後も三人のオリンピック代表選手のように、陸上競技の競い合う楽しさや目標達成の喜びにたくさん触れ、自己開花できる選手を育成できるように支援していきたい。

(普及委員長 豊田博幸)

情報システム委員会

静岡陸上競技協会情報システム委員会では競技会運営において、競技者のエンタリー、スタートリストなどの競技会事前情報や結果のホームページへの掲載、競技会当日のロールコール、トラック競技では写真判定からの記録の掲示および番組編成、フィールド競技では記録入力およびその掲示、また、競技場や競技会によつてはスタートリストや競技結果を電光掲示により競技者および観客に伝えるという業務を行っています。

近年の国民体育大会等の全国規模の競技会では、観客へのサービスとして、トラック競技では競技結果の速報をゴール直後から、記録が確定されていない判定の様子(判定中)を電光掲示板に映し出すようになってきました。この事は速報性という面ではありがたいことですが、確定された記録が掲示されたときに速報

とは違っているということもありました。現在の静岡陸上競技会で主に使用しているシステム、通称「上陸ソフト」では判定中の速報を電光掲示板に掲示していくことはできませんが、より正確に迅速に掲示できるようにしていきたいと思えます。

また、新たな取り組みとして、ホームページへの記録の速報を掲載するという事にも挑戦しました。陸協主催の主たる大会において、その種目の各ラウンドが終了した時点で陸協のホームページに結果を掲載しました。このことは競技会に観戦に来られないがホームページを見ることがにより結果がすぐわかるということと好評でした。

今後も記録委員会との連携や、IT機器の活用による円滑な運営を目指すとともに、選手・観客に対しては正確な情報をより早く・正確に提供できるように研修をしていきたいと思えます。

(情報システム委員長 三枝宣男)

審判委員会

一流の審判をめざして

毎年のことですが、二〇一二年度も大きなトラブルもなく無事に終了したことは、皆様方の陸上競技に対する愛着と弛まぬ審判技術の研鑽の賜であると感謝いたしております。二〇一三年度も引き続き各種大会へのご支援、ご協力の程よろしくお願い致します。

さて、本年度より、スタートにおけるルールが変更になります。「不正スタート一発失格」と「英語でのコール」について、以前から取り組んでいるので、大

きな問題はないと思います。大会によっては従来通りの方法で行う大会があると思えますので、大会ごとの打合せで確認をお願いいたします。そのほかの改正点については、三月末の審判講習会時に、審判部より説明いたしますので、その折りに確認して下さい。

次に、審判委員会からのお願いです。参加希望者が多く、人手が多い大会では、希望があってもお断りをする場合がありますので、ご承知おき下さい。

また、希望者が少なく、編成するのが困難な場合は、やむをえず、希望がない方へ依頼する場合があります。誠に申し訳ありませんが、その節はよろしくお願ひいたします。

次に、審判依頼部署についてですが、審判編成時、ルールや審判技術に堪能で経験豊富な方を中心に編成しています。必ずしも皆様方が希望する部署にいくとは限りません。ご迷惑をおかけしていることと思えます。大変申し訳なく思っています。皆様方には、固定した部署ばかりでなく、多くの部署を経験していただき、審判技術を磨いてほしいと思っておりますので、時に普段と違う部署に配属されていても、ご理解いただきたいと思えます。大会当日は、ルールブックを熟読し、依頼された部署にて、ご協力いただきます。大会終了時、旅費日当をお渡ししますので、印鑑をお忘れなきようお願い致します。

今回は、お願いばかりで申し訳ありません。よりよい大会を目指し、静岡陸協の益々の発展を願ひ、今後も宜しくお願ひ致します。(審判委員長 井出幸夫)

記録委員会

(記録委員長 赤堀順一)

平成24年に樹立された記録一覧表

【一般の部】

・日本新記録	(女子)	やり投	62m36	海老原 有 希	スズキ浜松AC	6.10	日本選手権	長 居
・東海新記録	(男子)	やり投	83m95	村 上 幸 史	スズキ浜松AC	6.9	日本選手権	長 居
	(女子)	やり投	62m36	海老原 有 希	スズキ浜松AC	6.10	日本選手権	長 居
		4×400mR	3'40"28	杉 浦・松 本 名 倉・建 部	浜 松 市 立 高	8.2	全国高校総体	新 潟
・東海タイ記録	(女子)	棒高跳	4m10	青 島 綾 子	日本体育大	7.15	市原市ナイター記録会	市 原
・県新記録	(男子)	200m	20"45	飯 塚 翔 太	中 央 大	6.8	日本選手権	長 居
		110mH	14"01	伊 郷 明 敏	国 際 武 道 大	9.12	日本学生対校	国 立
		3000mSC	8'35"27	武 田 毅	スズキ浜松AC	6.8	日本選手権	長 居
		やり投	83m95	村 上 幸 史	スズキ浜松AC	6.9	日本選手権	長 居
	(女子)	4×400mR	3'40"28	杉 浦・松 本 名 倉・建 部	浜 松 市 立 高	8.2	全国高校総体	新 潟
		棒高跳	4m10	青 島 綾 子	日本体育大	7.15	市原市ナイター記録会	市 原
		やり投	62m36	海老原 有 希	スズキ浜松AC	6.10	日本選手権	長 居

【高校の部】

・東海高校新記録	(女子)	4×400mR	3'40"28	杉 浦・松 本 名 倉・建 部	浜 松 市 立 高	8.2	全国高校総体	新 潟
・県高校新記録	(男子)	砲丸投	16m62	赤 間 祐 一	浜松城北工高	10.7	県高校新人	草 薙
		円盤投	46m92	石 塚 大 悟	浜松城北工高	10.5	国 体	長良川
	(女子)	5000mW	23'30"38	溝 田 桃 子	伊豆中央高	7.30	全国高校総体	新 潟
		4×400mR	3'40"28	杉 浦・松 本 名 倉・建 部	浜 松 市 立 高	8.2	全国高校総体	新 潟

【中学の部】

・日本中学新記録	(女子)	100mYH (ユース規格：中学最高)	13"66	藤 森 菜 那	浜 松 入 野 中	10.7	国 体	長良川
・東海中学新記録	(男子)	四種競技	3172点	藤 森 菜 那	浜 松 入 野 中	7.21	県中学通信	草 薙
		3000m	8'22"92	太 田 智 樹	浜 松 浜 名 中	10.28	ジュニアオリンピック	横 濱 日 産
	(女子)	100m	11"87	大 竹 佑 奈	浜 松 高 台 中	11.3	エコパトラックゲームズ	小 笠 山
			11"95	天 城 帆 乃 香	浜 松 天 竜 中	4.30	エコパ中学チャレンジ	小 笠 山
		200m	24"52	大 竹 佑 奈	浜 松 高 台 中	8.11	東 海 中 学	小 笠 山
			24"78	天 城 帆 乃 香	浜 松 天 竜 中	6.10	西部中学通信	浜 松
		100mH	13"98	藤 森 菜 那	浜 松 入 野 中	8.22	全 日 本 中 学	千 葉
			14"00	高 橋 砂 里 奈	静 岡 東 中	7.22	県中学通信	草 薙
		4×100mR	48"61	御 厨・中 井 中 山・天 城	浜 松 天 竜 中	8.22	全 日 本 中 学	千 葉
		4×100mR(混)	47"26	小 野 田・大 竹 渡 邊・天 城	静 岡 選 抜	10.28	ジュニアオリンピック	横 濱 日 産
	走幅跳	6m11	天 城 帆 乃 香	浜 松 天 竜 中	8.11	東 海 中 学	小 笠 山	
	四種競技	3172点	藤 森 菜 那	浜 松 入 野 中	7.21	県中学通信	草 薙	
	・県中学新記録	(男子)	800m	1'55"65	有 川 湧 貴	浜 松 天 竜 中	8.21	全 日 本 中 学
3000m			8'22"92	太 田 智 樹	浜 松 浜 名 中	10.28	ジュニアオリンピック	横 濱 日 産
(女子)		100m	11"87	大 竹 佑 奈	浜 松 高 台 中	11.3	エコパトラックゲームズ	小 笠 山
			11"95	天 城 帆 乃 香	浜 松 天 竜 中	4.30	エコパ中学チャレンジ	小 笠 山
		200m	24"52	大 竹 佑 奈	浜 松 高 台 中	8.11	東 海 中 学	小 笠 山
			24"78	天 城 帆 乃 香	浜 松 天 竜 中	6.10	西部中学通信	浜 松
100mH		13"98	藤 森 菜 那	浜 松 入 野 中	8.22	全 日 本 中 学	千 葉	
		14"00	高 橋 砂 里 奈	静 岡 東 中	7.22	県中学通信	草 薙	
4×100mR		48"61	御 厨・中 井 中 山・天 城	浜 松 天 竜 中	8.22	全 日 本 中 学	千 葉	
4×100mR(混)		47"26	小 野 田・大 竹 渡 邊・天 城	静 岡 選 抜	10.28	ジュニアオリンピック	横 濱 日 産	
走幅跳	6m11	天 城 帆 乃 香	浜 松 天 竜 中	8.11	東 海 中 学	小 笠 山		
四種競技	3172点	藤 森 菜 那	浜 松 入 野 中	7.21	県中学通信	草 薙		

【小学の部】

・小学県新記録	(男子)	1500m	4'34"64	岩 城 亮 介	函 南 R C	10.27	裾野市選手権	裾 野
	(女子)	200m	26"62	鈴 木 聖 菜	浜 松 河 輪 AC	10.14	県小学生選手権	草 薙

スポーツ科学委員会

アメリカの陸上競技プロコーチ

十二月二十二日から一月四日までロンドンオリンピックに出場した飯塚選手がアメリカのプロコーチにトレーニングの指導を受けた。飯塚選手は高校三年生の冬に初めて渡米しアメリカのプロコーチにトレーニングの指導を受けた。その翌年、世界ジュニア陸上競技選手権大会で二〇〇mで優勝した。日本では、短距離で世界で優勝したのは彼が初めてであった。アメリカでも話題になった。その後ややスランプに陥り、再び渡米してトレーニング指導を受け、昨年オリンピックに出場したきっかけになったと思う。すでに五回目の渡米になる。テネシー大学、フロリダ大学、そして今回、昨年と続きロサンゼルス郊外にあるゴールデンウエストカレッジでトレーニングを受けた。コーチは、元UCCLAの短距離コーチのトニー・ビニー（58歳）である。現在はコーチの指導やカレッジの選手を指導している。アメリカではこのようなコーチが数多くいる。

飯塚選手はロンドンオリンピックの前年、このコーチにスタートの技術、一〇〇m、二〇〇mの走り方のスキル、各種のドリル、筋力トレーニング、練習計画の立て方など多くの指導を受けた。飯塚選手も渡米を重ねるたびにモチベーションも高くなっていることがよく分かる。今回は飯塚選手の要望でいくつか的内容についてコーチングを受けた。コーチの内容は経験だけに基づくものでなく、科学的な要素を取り入れた内容ですべて納得の

いくものである。正に陸上競技の科学である。彼は全世界の情報を持ち、研究した沢山の資料を持っている。いわゆる引き出しが豊富なのである。また、常にビデオカメラを持ち選手の走りをチェックしている。

スタートを例にとっても繊細な理論を持っている。身長、脚の長さを測り、プロットの角度、足首の角度、前脚の膝の角度、後脚の膝の角度などを割り出す。また、いかにパワフルにスムーズにスタートするために一〇mまでの一歩一歩のストライドを割り出している。それにより前傾姿勢を決めていく。そして、スタートの在り方がゴールまで繋がることを解説してくれた。

ある時、彼がビデオを持ち出しロンドンオリンピックの飯塚選手と四〇〇mリレーを見せてくれた。各選手のラップタイムをとっており走り方の利点と弱点を解説してくれた。説明されると良く分かる。私は飯塚選手の試合にかなり同行した来たが、いつも日本の陸上界がレベルの高いプロコーチを持っていたら国際的に活躍出来る選手が更に増えていくと思う。特にロンドンオリンピックで強く感じた。（スポーツ科学委員長 高田均）

広報委員会

年間の一連事業である、メディア（新聞社・テレビ局）対応と月間陸上マガジン「陸連時報・県陸協ニュース」（二月・五月・八月・十一月号）年間四回発信。また県陸協会報は本年度定例の二回（三月に十二号九月に十三号）と特別号（四月に国際陸上・十月に団体関係）二回発

行した。日常の各競技大会においては報道各社に記録委員会との連携で競技内容を送信し掲載に協力して戴いた。

過去に日本陸連運営実務研修会（メディア部門）に出席した時のことについてであるが、スポーツ報道とは陸上競技界の普及、発展にあり主催者側は競技会から情報を発信し、多くのメディアに良い仕事（取材環境・情報提供・大会内容等）をしてもらい、常に相互理解を深め実践することが大切であると述べていた。

○主催者側として、規則はルールとして守らせる（柔軟な対応で）。競技者優先、安全管理の徹底。
○取材者側として、最高な取材（例…瞬間激写）を求めているので、可能な限り協力を。

本県においては、近年大きなトラブルもなく、県内メディアとは信頼関係は厚い。終わりに、陸協会報執筆にご協力をし、戴いた関係者の皆様に厚く御礼を申し上げます。（広報委員長 橋本美智夫）

高体連（全日制）

平成二十四年度を振り返って

今年度の事業が終わり、来年度へ向け皆さま準備に余念のない時期かと思われまふ。今年度の事業が大過なく無事終了できましたのは、高体連関係のみならず協会の皆さま他多くの関係者のお力があってのものと感じております。誠にありがとうございました。

さて、静岡県高校のこの一年を振り返ってみたいと思います。高校総体においては、浜松市立高校が女子一六〇〇mリレーで見事優勝、他三種目に三名が入賞

し、総合でも三位に入りました。その活躍を含め、個人では男子が六種目に六名、女子は五種目に六人が入賞し、女子のリレー二種目に二校がメダルを獲得しました。来年度統合により現校名「静岡市商」としては最後の出場となった静岡市商が、久々に全国に名をとどろかせたことには感動いたしました。全体を見て、ここ何年かの成績により他県の指導者からは、一時の低迷から復活しつつあるねという言葉を頂戴することが多くなりましたが、まだまだであることは否めません。特に男子のリレーを含めたトラック種目に奮起が望まれます。しかしながら、各顧問の熱意を持った指導と協会強化部の尽力により確実に上昇方向に向いていると思われまふ。高校駅伝では、男子は島田高校が念願の初優勝、女子は常葉学園菊川高校がレースを制し都大路への切符を手に入れました。京都での全国大会では、それぞれ二十六位、十八位の結果でした。長距離全体の底上げをはかりつつ、力を持った中学生が県外の高校へ流出してしまふ現状をなんとか食い止め、長距離・駅伝でも全国大会で活躍できる方策をとらなければなりません。

今年度高体連登録者数は約四千名、全国都道府県の競技力は登録者数に比例しています。トップ選手を強化し、その活躍を見て憧れ、陸上競技を続けたり、陸上競技の世界に飛び込んでくる生徒が増えていくようになればと思います。

来年度も是非、皆様方のお力添えで、素晴らしい高校生、素晴らしい競技者を育成していただけるようお願いいたします。

（高体連委員長 望月勇志）

高体連 (定通制)

今年度の定通制大会は全国大会の予選を兼ねる六月の春季大会には百十四名が参加し、全国大会には四十五名が出場権を獲得しました。十月に行われた秋季大会には六十九名が参加しました。いずれも最近では最多となる出場者数でした。

全国大会の結果は、男子では八〇〇mで富士の稲葉君と砲丸投で浜松大平台の柏木君が三位となったものの、個人で九つの入賞と苦戦し、トラックが八位、フィールドが五位となり、総合も五位でした。一方、女子の入賞はゼロに終わり、過去に例のない残念な結果となってしまいました。あと一歩という種目もあるので、来年度は今回以上の結果を残せるのではないかと期待しています。

定通制ということで全国大会であっても毎年様々な理由により辞退者が出てしまうのですが、今回は特に多かつたように思われます。中でもリレー選手の辞退により急遽メンバーを入れ替え、結果として個人種目にも影響してしまつたということがありました。選抜チームでの意思の疎通の難しさというものを改めて痛感することとなりました。

最後になりますが、毎年多大な協力を頂いている東部陸協、中部陸協、中部高体連その他関係者各位にはこの場を借りて御礼申し上げます。次年度も引き続きご協力をお願いいたします。

(定通制委員長 浜田俊則)

中体連

一年間を振り返って

第三十九回全日本中学校陸上競技選手権大会は、「感動躍動」ここにあり 関東平野の大舞台」をスローガンに千葉県総合スポーツセンター陸上競技場で開催されました。競技は、八〇〇mで有川君(浜松天竜)、三〇〇mで太田君(浜松高台)、二〇〇mで大竹さん(浜松高台)、走幅跳で天城さん(浜松天竜)、四種競技と一〇〇mハードルで藤森さん(浜松入野)の六種目で優勝の他、十種目に入賞という過去にない素晴らしい成績を残しました。

また、横浜日産スタジアムで行われた、第四十三回ジュニアオリンピックでは、三〇〇mで太田君、二〇〇mで大竹さん、一〇〇mハードルで藤森さん、走幅跳で小野田さん(静岡東)、女子のリレーチームのあわせて五種目で優勝することができました。

さらに、岐阜県で行われた国民体育大会でも走幅跳で天城さん、一〇〇mHで藤森さんが優勝しました。

これらのすばらしい成績は、顧問の先生方の日常の指導や強化スタッフによる県合宿での指導があり、頭の下がる思いです。

最後に、本年度も中学生の大会運営にご協力をいただいた本協会の皆様にお礼を申し上げます。ありがとうございました。

(中体連理事 鳥井俊秀)

クラブチーム紹介

陸上好きな子供を目指して

静岡葵AC (アスレチッククラブ)

近年スポーツをやらない子供たちが、多くみられるようになってきました。このような子供達に陸上競技を通してスポーツを行う環境を提供していこうと思いい、平成十七年四月に静岡市陸上競技協会主催事業として静岡葵AC (アスレチッククラブ) を立ち上げました。

当初、スポーツをやっていない子供を対象に、陸上競技好きな子供を多く作ってゆくことを目的としたいと考えました。しかし、募集してみると、サッカー・ミニバス・少年野球・体操等スポーツをやっている子供が多く集まりました。これらの子供たちは、足が速くなり自分たちの所属しているスポーツ種目で力を発揮したいという目的で加入してきたようです。このような子供達も含め、団員数は一八〇人を超える事もありました。多くの子供たちが参加してくれる事は嬉しい事ですが、私達の目指すものとは違う目的で入団してくる子供も多く、二年目以降は他のスポーツをやっている子供は自分の所属するスポーツ少年団でやって頂くよう退団をお願いしました。

次年度より、純粹にスポーツをやっていない子供のみを集め、陸上競技を楽しむながら陸上好きな子供たちを増やしていくための呼びかけをしました。その結果団員数が九〇人前後と半数に減ってしまった。しかし、静岡葵ACの活動の様子を競技場で見たり、ホームページ

で知ったりして関心を持つ子どもがふえ、現在は一三〇人を超す団体になりました。

練習は毎週水・金曜日の五時から七時まで、低学年・中学年・高学年・長距離走に分かれて行っています。低学年は、ボールや輪・コーン・縄跳び・鉄棒等を使った楽しい陸上遊びを練習の中に取り入れ、陸上競技ってこんなに楽しんだ、また来週も行こうという気持ちになるような指導を心がけてきました。中学年では低学年から引き継いで、ミニハードルやハードル・ラダー等の用具を使用しながら、陸上競技本来の方向に目を向けさせ、陸上競技の基本を習得させるよう指導しています。高学年では、跳躍や投擲等専門種目も取り入れて、競技会へ出場



し自己の記録へ挑戦させることや、他の選手と競う力をつけさせることによって、陸上競技が好きで中学校へ行っても陸上競技を継続できる子供となるよう指導しています。また長距離では、学校のマラソン大会等もあり、その中で成果を出したいと長い距離に挑戦する子供も多く、練習をする中で長距離の面白さを味わい、県市町対抗駅伝の候補を目指す子どもも出てきています。長い距離をいやいや走らされていると思わせるのではなく、自ら記録に挑戦し走る楽しさを与えるための指導をしています。

「陸上好きな子供を目指して」静岡の陸上競技の普及の一翼を担おうと指導にあたってきたが、現在は東海大会や全国大会に出場する子供も出てきて、団員の士気も上がり競技力も少しずつ向上してきました。これからもスポーツ好きな子供を育てるとともに、陸上競技の普及と強化に努める指導をしていきたいと思っています。(石上雅宏)

県小学生陸上競技選手権大会

十月十四日、第四十一回大会は県営草薙陸上競技場で二十二種目の決勝を行った。男子五・六年一五〇mは渡辺良太選手(函南RC)が4分40秒81の好タイムで、また同五・六年八〇m障害は宮島良斗選手(千代田ACC)が12秒58でそれぞれ第一位に輝いた。女子五・六年二〇〇mは鈴木聖菜選手(浜松河輪)が26秒69、県小学生新記録で優勝した。(予選は26秒62)



県中学新人戦大会

十月六日、県営草薙陸上競技場で二十種目(オープン種目含む)を行った。男子共通一〇〇m・同二〇〇mを山中翔平選手(裾野富岡)、女子は渡辺采月選手(清水四)らがそれぞれ二冠に輝いた。



男子一年一五〇mは池田卓矢選手(浜松三ヶ日)が4分20秒45の大会新で優勝した。また女子共通走り幅跳びを制したのは一年生小野田史紗選手(静岡東、追い風参考5m61)。女子共通八〇〇mは小山和花選手(清水ミズノSC)が連覇した。

県高校新人戦大会

九月二十九日・十月七日、県営草薙陸上競技場で開幕。一日目は男女十八種目の決勝を行った。男子一〇〇m・同四〇〇m R出場の後藤和嗣選手(磐田北)は二度優勝を果たした。女子一〇〇m障害は大橋萌子選手(静岡市商)が14秒23で大会新、走り幅跳びは松島美羽留選手(浜松市立)が1m70大会タイ記録でそれぞれ優勝した。大会二日目は、台風十七号接近に伴い一週間後開催、男女二十種目(オープン種目含む)を行った。男子砲丸投げは赤間祐一選手(浜松城北工)が県高校新(16m62)、円盤投げ(42m33)



と二種目を制した。また男子ハンマー投げの森大輝選手(浜松城北工)55m95、女子五〇〇m競歩の溝田桃子選手(伊豆中央)23分55秒01。この二人は自身の大会記録を更新して連覇した。大会最終日最後の種目一六〇〇m Rは男女とも浜松市立高校チームが優勝した。

東海マスターズ 陸上競技選手権大会

十月二十一日、第十一回大会はエコパスタジアムで開催した。澄みきった秋空の下、東海五県(愛知・長野・三重・岐阜・静岡)と北は青森、南は福岡から選手(男女)三一三人が集まり、走・跳・投の三十四種目(カテゴリー二〇六)を行った。このうち大会新記録四十九、大会タイ記録一つがでた。また本大会の最高年齢選手は、女子六〇m・一〇〇m二種目に出場した岩城かつこさん九十五歳(静岡)は、二〇一〇年日本記録保持者でもある。



エコパ トラック ゲームズ ジュニア日本新・大会新が続出

十一月三日、エコパスタジアムを会場に第三回大会が行われた。前年より参加標準記録を上げ、男女二十種目のカテゴリーでの決勝。エントリー者数は予想以上の参加があり、静岡国際陸上に次ぐ高いレベルの競技会となった。特に大活躍した男子一〇〇m部門B（中学三年、高校二年）出場の桐生祥秀選手（京都・洛南高校）10秒19のジュニア日本高校新記録をマークした。一般男子四〇〇mリレーは桐生選手がアンカーを務めた洛南高校が39秒64の日本高校新記録で優勝。第二位の兵庫・滝川第二高校も39秒72の高校新記録だった。部門B女子一〇〇mはロンドン五輪出場の土井杏南選手（埼玉栄高校）が11秒61大会新記録で優勝。第二位の大竹奈選手（浜松高台中学）は



11秒87の東海中学校新記録。一般女子四〇〇mリレーは埼玉高校、同女子一六〇〇mリレーは浜松市立高校チームがそれぞれ栄冠を勝ち取った。

しずおか市町対抗駅伝競走大会

恒例の第十三回回市町対抗駅伝競走大会は十二月一日、静岡市（葵区清水区・駿河区）で行われた。市の部二十七（入

市の部	時間
① 浜松市西部	2時間13分29秒
② 浜松市北	2時間15分34秒
③ 浜松市中	2時間15分43秒
④ 浜松市東	2時間16分07秒
⑤ 御殿場市	2時間16分59秒
⑥ 富士枝	2時間18分40秒
⑦ 静岡市清水	2時間19分02秒
⑧ 富士宮市	2時間19分24秒
⑨ 静岡市清水A	2時間19分49秒
⑩ 磐田市	2時間20分28秒

町の部	時間
① 長泉町★	2時間18分18秒
② 函南町★	2時間20分32秒
③ 小山町★	2時間20分49秒
④ 吉田町★	2時間21分24秒
⑤ 清水町★	2時間22分24秒
⑥ 森町★	2時間25分22秒



賞十位まで）・町の部十二（六位まで）計三十九チームが郷土の声援を受けて駿河路を快走した。市では浜松勢が上位を独占し、町では長泉が五回目の優勝を果たした。

東海高校駅伝競走大会

十一月二十五日、岐阜、羽鳥往復コースで行われた。男子は浜松日体高が七位、島田高（全国高校駅伝初出場）十位だった。女子は常葉菊川高（全国高校駅伝出場）が一区・二区で区間賞を獲得し二位入賞を果たした。

全国都道府県対抗駅伝大会

○男子
天皇杯、第十八回は一月二十日広島市で行われた。本県代表チームは健闘し2時間21分41秒の記録（上位八位と8秒



差で十一位となった。二区・三区・七区の快走で勢いをつけしたが、あと一歩で入賞を逸した。次回を期待したい。

○女子

皇后杯、第三十一回は一月十三日京都市で行われた本県チームは過去最高の五位入賞、記録2時間16分36秒。レースは前半に良い流れをつくり、そのままキープ後半に勝負をかけた展開となった。

第六十三回富士宮駅伝大会

富士宮市制施行七十周年記念・第六十三回富士宮駅伝競走大会二月十日、市役所前をスタート・ゴールに白糸の滝を折り返すコース（六区間、全長三十二・八キロ）で行われ、史上最多の二四七チームがタスキを繋ぎ健脚を競った。総合で招待チームの東京農業大学Aが通算四度目の優勝（大会新記録 1時間40分21秒）に輝いた。



高校の部では藤枝明誠高A、中学の部では富士の大淵中、女子の部では東京農業大Aが優勝を飾った。

レースは、滝ヶ原自衛隊と東京農業大が争う展開となり、一区で滝ヶ原自衛隊がリードするも東京農業大Aは、二・三区でトップに、そのままタスキを繋いだ。

高校の部は、一区で富士宮北高がトップ、続いて日大三島高と加藤学園の展開だったが、加藤学園と藤枝明誠高が追い抜き、四区から藤枝明誠高が競り出て、優勝した。

中学は、昨年優勝の沼津ジュニアが一区でトップであったが、二・三区で大淵中が順調にタスキを繋ぎ、優勝。

女子の部は、一区で加藤学園が好調な走りを見せたが、その後東京農業大Aが予想通りトップに立ち、そのままゴールした。
(広報・矢邊)

浜名湖一周駅伝

第三十七回浜名湖一周駅伝競走大会は、二月十七日、浜名湖を左周りに一周するコースで開かれた。

大会は、一般男子の部（五区間53・5キロ）に11、高校男子の部（六区間42・0キロ）に37、女子の部（五区間20・6キロ）に28の合わせて76チームが出場し湖畔に熱のこもった戦いを繰り広げた。

レースは午前10時15分に一般男子が館山寺温泉をスタート。高校男子の部が西気賀小学校前、女子の部が浜名湖電装前で一般男子にそれぞれ合流し、館山寺温泉にゴールした。



一般男子は二区で首位に立ったスズキ浜松ACが二区以降独走で二位に1分26秒差をつけて2時間42分49秒で四連覇達成。二位には箱根駅伝を走った四人が名を連ねた帝京大A、三位には2時間45分7秒で帝京大Cが入った。

県勢では、2時間59分16秒でスポーツタウンメイセイが九位、3時間24分28秒で浜松健走会が十一位であった。

高校男子は西脇工高が、二区から独走で二位に2分20秒の大差をつけて2時間7分38秒の大会新記録で三年ぶり通算十一回目の優勝。二位は2時間9分58秒で豊川工校、三位は2時間10分34秒で愛知高Aが入った。

県勢では、2時間14分24秒で藤枝明誠高Aが十三位、2時間16分16秒で加藤学園高Aが十六位、2時間17分23秒で浜松



日体高Aが二十一位であった。

女子は、スズキ浜松ACが終始、首位を守り、五年ぶりの出場を1時間7分2秒の大会新記録で飾った。二位は1時間8分2秒で立命館宇治高、三位は1時間9分46秒で豊川高が入った。

県勢では、常葉菊川高Aが1時間10分13秒で五位、三島北高が1時間12分38秒で十一位、浜北西高が1時間12分52秒で十二位であった。
(広報・松井)

第三十八回 静岡駿府マラソン

三月三日、第三十八回大会が静岡駿府公園を発着点に弥生の駿府・駿河路恒例コースを約一万五千人の選手が快走した。北は北海道、南は九州・長崎からの参加であった。今回もスペシャルゲスト

として、増田明美（スポーツジャーナリスト）さんを招いた。競技は四部門構成で行われた。ハーフマラソンの部、男子総合は出口和也選手（旭化成）1時間4分1秒。女子総合は坂田優希選手（スズキ浜松アスリートクラブ）1時間14分48秒のタイムでそれぞれ優勝した。



編集後記

新しい年二〇一三年を迎えました。静岡の陸上界もいよいよトラックシーズンです。昨年はロンドン五輪で本県勢の活躍や国民体育大会上位入賞等、競技力向上を証明した年であったと思う。今年はモスクワ世界陸上大会が控えています。本県、ジュニア層の成長が加わり今後の大会が楽しみです。

〔編集〕

県陸協広報委員会・県陸協事務局

○橋本美智夫（編集・文責）

・水谷陽介（編集委員）

・片岡佳美（編集委員）

・矢邊進

・内田光英

・亀山健士

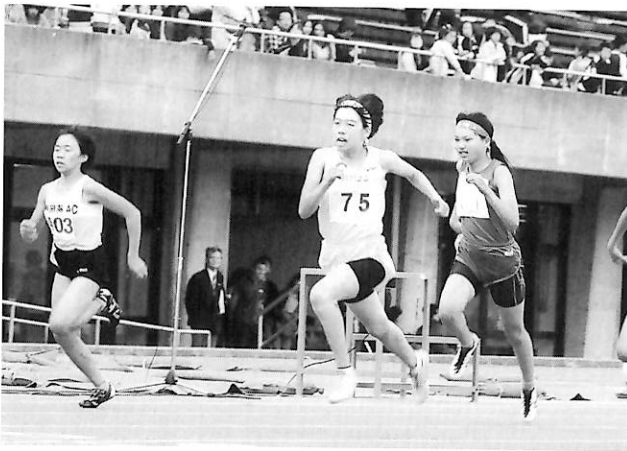
・山口丈男

・松井清和

・田部井昭博

○写真（陸協報道） 大多和・橋本

（印刷）大日紙業株



Photograph

- 県小学生選手権大会
- 県中学新人戦大会
- 東海マスタース大会
- 県高校駅伝大会
- 県市町対抗駅伝大会
- 全国都道府県対抗駅伝大会





平成 2 5 年度 一般財団法人 静岡陸上競技協会役員

★常任理事

顧問	鈴木 修 齊藤斗志二 齊藤滋与史 望月 尚夫 天野 一 佐橋 保 亀山 敏郎 勝又 瑛逸 山下 昌彦
参与	加藤 崧 伊藤 久雄 石田 徳郎 糸川 欣司 中村 修 中西 基
会長	★和田 隆保
副会長	★遠藤 栄 ★河合 久光 ★池田 毅 ★鳥井 啓市
副理事長	★望月 紘一 (東部理事長) ★大塩 正則 (中部理事長) ★森下 哲治 (西部理事長)
東海陸協理事	鳥井 啓市 望月 紘一 大塩 正則
評議員	眞下 達雄 福良 勝己 矢邊 進 村松 義明 仁科 仁郎 佐藤 常保 荒川 功 山下 眞里 山口 嘉一
常任理事	★稲葉 勝巳 ★川口 雅司 ★原田洋一郎 ★末高 義美 ★筒井 計臣 ★神谷 晃尚 ★大原 一夫
理事	安部 六郎 小林 一幸 鈴木 真之 西尾 誠 岩田 佳久 岩本 穰 堀之内 大 鈴木 康弘 豊田 博幸 大野 昌俊 森戸 定尾 新聞 一夫 松井 清和 榎本 好孝 鈴木 公哉
会長指名理事	渡辺 辰彦
高体連理事	望月 勇志
中体連理事	鳥居 俊秀
マスターズ理事	高橋 正
ハンディキャップ理事	杉山 金吾
監事	林 昭仙 石上 雅宏 外波山雅章
事務局	(事務局長) 大原 一夫 (事務局) 松村吉郎 瀧 義弘
総務委員会	(委員長) 石野 吟策 (副委員長) 小沢 誠 孕石 英男
競技委員会	(委員長) 永田 勝久 (副委員長) 小関 武利
審判委員会	(委員長) 井出 幸夫 (副委員長) 眞下 達雄 渥美 淳一 植平 充彦
強化委員会	(委員長) 杉井 将彦 (副委員長) 筒井 計臣
普及委員会	(委員長) 豊田 博幸 (副委員長) 西尾 誠 福嶋 泰治
情報システム委員会	(委員長) 三枝 宣男
施設委員会	(委員長) 久保田金也 (副委員長) 渡辺 祐司 村上 馨
記録委員会	(委員長) 赤堀 順一 (副委員長) 梶 壽雄 大野 昌俊 外波山雅章
広報委員会	(委員長) 橋本美智夫 (副委員長) 亀山 健士 矢邊 進 松井 清和
スポーツ科学委員会	(委員長) 齊藤 史門

平成 25 年度 静岡陸上競技協会 行事予定表

△・記録公認大会

月	陸 連・東 海・国 際	県 陸 協 ・ 他	東 ・ 中 ・ 西 部 地 区 主 催 ・ 主 管
13 4 月	20(土)・21(日)兵庫リレーカーニバル ユニバ記念(神戸) 21(日)日本選手権50km競歩(石川) 21(日)長野マラソン(長野) 27(土)・28(日)日本選抜和歌山大会 (紀三井寺) 28(日)・29(月・祝)織田記念国際陸上 (広島広域公園)	6(土)小中学生陸上競技種目別 (静岡西ヶ谷) 7(日)日本平桜マラソン(静岡草薙) 14(日)県障害者春季記録会(静岡草薙) 27(土)△第42回静岡リレーカーニバル (静岡草薙)	6(土)・7(日)△第1回西部月例 (浜松四ッ池) 7(日)日本平桜マラソン(静岡草薙) 7(日)△春季東部記録会(沼津愛鷹) 13(土)△中部陸協記録会(1回)(静岡草薙) 14(日)△焼津港マラソン(焼津) 14(日)△御殿場長距離記録会(御殿場) 20(土)・21(日)△東部選手権(沼津愛鷹) 20(土)・21(日)△中部選手権(静岡草薙) 20(土)・21(日)△西部選手権(浜松四ッ池) 28(日)△東部強化記録会(沼津愛鷹) 29(月・祝)△中学チャレンジ記録会 (小笠山エコパ)
5 月	3(金・祝)静岡国際陸上(小笠山エコパ) 5(日・祝)ゴールデングランプリ (国立)	3(金・祝)△静岡国際陸上(小笠山エコパ) 11(土)△県長距離強化記録会第1回 (小笠山エコパ) 18(土)静岡県すこやか長寿祭 (静岡草薙) 24(金)～26(日)△県高校総体・兼国体予選 (小笠山エコパ)	4(土)～6(月)△高校総体東部大会 (沼津愛鷹) 4(土)～6(月)△高校総体中部大会 (静岡草薙) 4(土)～6(月)△高校総体西部大会 (浜松四ッ池) 11(土)△富士地区陸上記録会(富士) 11(土)△中部小中選手権大会(静岡草薙) 12(日)裾野高原マラソン(裾野) 12(日)△第2回西部月例(浜松四ッ池) 18(土)△長泉陸上記録会(沼津愛鷹) 19(日)△春季西部小学生陸上(小笠山エコパ) 25(土)△富士春季記録会(富士)
6 月	1(土)・2(日)日本陸上選手権混成・ジュニア混成 (長野市営) 7(金)～9(日)第97回日本選手権 味の素スタジアム(東京) 21(金)～23(日)東海高校総体伊勢(三重)	2(日)スポレク祭マスターズ陸上(静岡草薙) 15(土)小中学生陸上競技種目別 (静岡西ヶ谷) 15(土)△県長距離強化記録会第2回 (小笠山エコパ) 15(土)△県定通制高校陸上(富士) 23(日)△第29回小学生交流大会(静岡草薙) 29(土)△国体成年・少年予選会 (小笠山エコパ)	8(土)・9(日)△東部中学通信(沼津愛鷹) 8(土)・9(日)△中部中学通信(静岡草薙) 8(土)・9(日)△西部中学通信 (小笠山エコパ) 15(土)△東部強化記録会(裾野) 16(日)△御殿場小山陸上記録会(御殿場) 29(土)△沼津市陸上選手権(沼津愛鷹)
7 月	6(土)・7(日)東海地区高専体育大会 (沼津愛鷹) 7(日)南部記念 (札幌) 30(火)～8/3(土)全国高校陸上 大分銀行ドーム	6(土)△第28回中学選抜大会国体予選 (小笠山エコパ) 6(土)・7(日)△東海地区高専体育大会 (沼津愛鷹) 14(日)・15(祝)△第68回県選手権 兼国体予選(静岡草薙) 20(土)21(日)△第59回県中学通信陸上 (静岡草薙)	20(土)△エコパ高校オープン陸上 (小笠山エコパ) 27(土)△浜松地区中学陸上(浜松四ッ池) 28(日)△静岡市中体連陸上(静岡草薙) 28(日)△22回東部陸上カーニバル (沼津愛鷹)
8 月	10(土)東海中学陸上 瑞穂(名古屋) 12(月)～14(水)全国定通制高校陸上(国立) 18(日)19(月)全国高専陸上 いわき(福島) 19(月)～22(木)全国中学陸上 瑞穂(名古屋) 23(金)・24(土)全国小学生陸上 日産スタジアム(横浜) 24(土)25(日)東海選手権(静岡草薙) 25(日)東海小学生リレー競走大会 (静岡草薙) 25(日)北海道マラソン(札幌)	4(日)△第25回県ジュニアクラブ選手権 (静岡草薙) 4(日)第38回富士登山駅伝大会(御殿場) 5(月)△国体成年・少年予選会 (小笠山エコパ) 24(土)25(日)△東海選手権(静岡草薙) 25(日)△東海小学生リレー競走大会 (静岡草薙) 31(土)△第32回県ジュニアオリンピック予選 (静岡草薙)	17(土)△浜松市内高校新人陸上(浜松四ッ池) 18(日)△静大夏季サーキット(静岡草薙) 18(日)△東部強化記録会(御殿場) 27(火)△中部陸協記録会(2回)(静岡草薙)